



# JACET News

大学英語教育学会

July 2005

The Japan Association of College English Teachers

No.149

巻頭言

## 困難なときにこそ本質が見える

桜美林大教授 森住 衛

5月に会員みなさんに送りました会長就任の<ご挨拶>で、私は、学会の当面の課題として3つを挙げました。この3つとは、「活性化」、「体制の整備」、「活動の発信」でした。本欄を借りて、これらについて多少の補足をしたいと思いますが、特に、本稿の題目とも関係している「活動の発信」については、これまで本格的に着手してこなかっただけに、その重要さを感じています。

最初に活性化についてですが、組織が活性化するというのは、「会員の大多数が活動に参画している」ということです。当然ながら、組織は一部の人たちの献身的な関与によって成り立っているところもあります。これまでJACETは長い間、役員のような Service and

Sacrifice'に負ってきました。この精神をできるだけ多くの人たちと分かち合うことが活性化につながります。このためには、役員は適当な時期に交代することになります。こうすると、若い人たちの関与を促進します。30代、40代の人たちがその中枢に位置している組織は活性化しています。JACETもこのような学会になることを願っています。

次は、体制の整備です。JACETは、創設44年になりますが、どのような組織も40年余も経てば、「澱」のようなものが溜まってきます。理工系には「40年説」というのがあって、40年くらい経つと、それまでの立脚点や理論とは別の、あるいは正反対の、発明や発見が出てくるそうです。文系ではこれほど極端ではないにしても、

これまでの体制をみなおす必要があります。JACETでも、この動きはすでに始まっています。その1つは2006年度からは関東支部が設立です。これにより、関東周辺地域の会員や役員は、仕事の分担の整理をおこなうこととなります。また、学会が「任意団体」から「法人」へ移行する必要性も浮上してきています。JACETのような規模の学会は、社会的にも法人の方が適しています。実際、財務管理なども含めて、任意団体では扱いが難しい部分が出ています。法人化した場合、会則や体制がどう変わるか、いよいよ本格的な検討が必要です。

最後は、活動の発信ですが、これは研究と教育の両面があります。最近は、特に後者が必要になってきています。周知のように、学生数の減少による大学教育そのものの危機があります。英語のみならず、全体的に学生の意欲や能力が退化しています。英語教育にあっては、その実用的な側面が強調されすぎるきらいがあります。外部に「丸投げ」されたり、教員採用も期限付きにされたり、英語教育の位置づけも不安定になってきました。このような時代にあって、「何が変わるべきで、何が変わるべきでないか」を学会として発信していかなければいけません。その一番手は、授業についてではないでしょうか。普段の授業は、私たちの研究・教育の出発点であり、到達点でもあるからです。授業を通して、各界はいうまでもなく、世間にも「大学英語教育ここにあり」という発信をする必要があります。また、改めて、英語教育分野だけではなく、英語文学、英語学、文化学の領域も結集する必要があります。さらに、「日本語教育学会(連合協議会)」として、縦横の大同団結を計ることも必要です。「英語」とか「大学」だけでは本来の問題解決にならないからです。縦とは、幼・小・中・高・大・成人・高齢期などの

学習段階の年齢・年代です。横とは、母語/国語/日本語、英語、中国語、エスペラント等の言語教育の種類の広がりです。それぞれの力を結集すれば、発信力は強くなります。これまでは授業改革も言語教育の大同団結もさほど重要な課題として見えていませんでした。これがこの時代だからこそ鮮明に見えてきたのです。困難なときにこそ本質が見えるのです。この点で、私たちはつらいけどやりがいのある時代に生きているともいえます。

#### 本部便り

代表幹事 木村 松雄

< 「知」と「情」の交流を目指して >

2005年度4月より本部代表幹事となりました木村松雄です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。皆様のご協力のもと会長選挙も恙無く終了し、森住衛会長、神保尚武副会長の指導のもと正しく新体制による船出が始まりました。本部においては、全国各支部長等との連携を密にとりながら毎月1回合同会議を第3週土曜日に開催しております。合同会議においては、総務委員会、財務委員会、全国大会運営委員会、紀要委員会、広報通信委員会、事業委員会、ネットワーク管理委員会、事業委員会、国際交流委員会、研究会担当委員会、関東甲越地区運営委員会等の各運営委員会からの報告と提案が、また特別委員会からは、実態調査委員会、テスト研究開発委員会、組織構成委員会、授業学研究委員会等からの報告と提案がなされ、それらを慎重且つ迅速に審議しております。またこれに先立ち、総務委員会、月例理事会を開催し、合同委員会が速やかに進捗するよう、予め問題点を洗い出し、その解決法等にも会長、副会長、各理事のお力をお借りしながら一定の方向性が

見出せるよう十分な審議がなされた上で、合同委員会が開催されております。

多様な価値が存在する一方で確実にグローバル化は進み、既存の一定地域内において自己完結していた価値観が相互に衝突を繰り返す、絶対的という価値判断は、場合によっては宗教や哲学においてさえ通用し得ない時代に突入してきた感は否めません。相互の主義主張ばかりが目立ち、淘汰もやむを得ないとする諦念が顕在化しており、理想追求を旨とする教育・研究領域にもこの影響が出始めているのは危惧すべきことと考えます。このような時代においては、結論を事前に用意してこれを短時間で相手に説得する言わばトップダウン方式だけではなく、一見異なる見解の根底に共通してある相互補完性の高い事柄等への気づきと相互理解を可能にするボトムアップ方式による話し合いがやはり必要ではないかと考えております。両者が相容れないと理念とは裏腹に組織は硬直化する大学の改革例をよく耳に致します。

今後は、さらなる会則の変更、学会の法人化等重要な検討課題が山積しておりますが、JACETの果たす内部改革が、結果的には日本の英語教育（小、中、高、大）改革の進捗を支援するものとなるよう、皆様の声をお聞きしながら、森住会長、神保副会長の提案の実現化に向け、副代表幹事共々微力ながら力を注ぐ覚悟です。何卒ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

### 支部便り

<北海道支部>

1. JACET 北海道支部第 20 回大会  
日時：7 月 2 日(土)12:30 17:40  
場所：北星学園大

JACET 通信

総会：支部規約の見直し、支部役員、前年度行事活動及び会計報告並びに監査報告。

本年度行事予定及び予算の審議について。

A 会場研究発表 1：「e-learning! IT 時代の英語教育」(坂部俊行・道都大)

研究発表 2：「“Flexible Learning” オーストラリアの 2 つの大学の視察報告」

(石塚博規・北海道東海大)

B 会場研究発表 1：「インプット量の確保と多読への導入を目指すリーディング指導」

(田中洋也・札幌南陵高・北海道大院)

研究発表 2：「日本語母語 ESL 学習者の音読スキル」

(山田恵・北海道薬科大)

講演：「英語教育の外部テスト導入について 大学英語教育の視点から」

(石川祥一・JACET 理事・実践女子大)

シンポジウム：「外部試験利用による成績評価をめぐって 各大学の実態」(司会：吉田翠・天使大、講師：河合靖・北海道大、塚越博史・北海道医療大、中屋晃・北西学園大、横山良樹・北海道教育大)

## 2. 研究会の開催

a) 2004 年度第 3 回研究会

日時：1 月 22 日(土)15:00 17:00

場所：北海学園大

講演：「語彙学習におけるコーパスと辞書の役割」

講師：投野由紀夫(明海大)

b) 2005 年度第 1 回研究会

日時：6 月 18 日(土)14:00 15:00

場所：北海学園大

講演：「イギリスの大学院 ノッティンガム大学英語研究科の場合」

講師：早坂慶子(北星学園大)

### 3. 運営委員会・研究企画委員会の開催

#### a) 2004年度第3回運営委員会

日時：1月22日(土)13:00 15:00

場所：北海学園大

田辺会長の葬儀，理事会，支部紀要，ニューズレター，平成17年度全国大会の司会及び特別講演者について報告があり、ついで2004年度行事・会計，2005年度行事・活動，2005年度支部大会，支部規約の見直し及び支部規約の統一について審議が行われた。

#### b) 2005年度第1回運営委員会

日時：4月23日(土)14:00 16:30

場所：藤女子大

全国理事会・次年度東北支部との合同支部大会・国際交流委員・全国大会司会についての報告があり、ついで支部大会，支部規約，支部役員，予算・決算，研究会運営委員会について審議が行われた。

#### c) 2005年度第2回研究企画委員会

日時：6月18日(土)15:00 16:30

場所：北海学園大

会長選挙の結果・2006年度20周年記念支部大会・全国授業学委員会に関する報告があり、ついで支部大会，総会議題，支部規約，第2回研究会について審議が行われた。

### 4. 紀要およびニューズレターの発行

紀要 Research Bulletin of English Teaching 第2号が2月28日付けで、JACET 北海道支部ニューズレター第18号が3月31日付けで発行された。

(河合 靖・北海道大)

<東北支部>

#### 1. 支部役員会

6月4日(土)12:30-14:00 東北学院大

2004年度第1回目役員会が、本部より神保尚武理事をお迎えして、東北学院大で開催された。前年度決算・監査、今年度予算・活動計画、役員案などの議案を審議した後、7月に発行を予定している支部紀要の編集状況の報告があった。さらに、北海道支部と支部大会を共同で行うことの可能性を検討した。

#### 2. 支部大会

6月4日(土)14:30-17:30 東北学院大

講演会

講師：神保尚武(早稲田大教授・JACET 理事)

演題：「コミュニケーションと英文法 教材作成の視点から」

シンポジウム

テーマ：「コミュニケーションと文法」

パネリストと演題：福地和則(仙台電波高専)

「やっぱり文法は必要だ」・高橋潔(宮城教育大)

「明示的に教える必要のある文法・語法」・神保尚武(早稲田大)「文脈での文法(Grammar in Context)」

2005年度支部総会は、本部理事の神保先生をお迎えし、東北学院大で開催された。支部大会は神保先生の講演会とシンポジウムによって構成され、講演では高校検定教科書執筆者として教材作成に関わる神保先生から、貴重なお話しを伺うことができた。シンポジウムでは英文法指導のあり方をめぐって3人のパネリストからそれぞれ違った視点に立った意見が出され、フロアからの質問とともに活発な議論が展開された。文法指導は重要であるという点では一致しながらも、文法指導に関して異なるアプローチが提示され興味深いシンポジウムとなった。参加者は約40名であった。

#### 3. 今後の予定

9月下旬に秋田において支部例会開催の予定。  
12月上旬には仙台において支部役員会・支部例会を行う予定。東北支部紀要創刊号は7月の発行をめざし現在編集委員会が作業中である。支部通信29号、30号はそれぞれ8月、3月に発行される予定である。

(村野井仁 東北学院大・岡崎久美子 宮城工業高専)

#### < 関東甲越地区 >

##### 1. 第2回関東甲越地区総会

下記の日程で行われ、活動計画、予算が承認された。今後、来年4月の関東支部立ち上げに向けて準備等が話しあわれた。

日時：2005年5月21日(土)16:10~17:30

場所：JACET 事務所

なお、神保尚武運営委員長が副会長就任のため退任し、石田雅近副運営委員長が運営委員長となり、中野美知子が副運営委員長となった。

##### 2. 月例会

・2004年12月18日(土)16:10-18:20

1) JACET テスト研究会：石川祥一(実践女子大学) 中村優治(東京経済大学) 岡田敦子(東邦大学) 松本佳穂子(東海大学)

「4つのJACETテストによる日本人大学生の英語能力の分析」

2) JACET 語法研究会：高木 道信(千葉商科大学名誉教授) 小谷悠紀子(東京電機大学) 喜田 慶文(東洋大学)

「句動詞について」

・2004年12月20日(月)特別講演会

17:30 18:30 (於：早稲田大学)

Andrew Cohen

“Towards a Global Citizenry of More Savvy Language Consumers”

・2005年3月19日(土)16:10-18:20

1) 竹内理(関西大学)

「外国語学習成功者の研究--研究手法の観点から」

2) 神保尚武(早稲田大学) 伊東弥香(東海大学)

「全国公立中・高の英語教員募集内容と採用の観点に関する調査」

・2005年4月17日(土)16:10-18:20

1) 高瀬敦子(関西大学)

「多読授業を成功に導く鍵:高校での多読授業7年間の実践記録」

2) 鈴木健(津田塾大学)

「アメリカ大統領選挙を振り返る メディア時代の政治コミュニケーション」

・2005年6月18日

1) 吉成雄一郎(東京電気大学):「一人一人の能力差に対応したWEB学習システムの開発」

2) 中條清美(日本大学) 「英語運用能力の向上を可能にする語彙指導--基礎研究と応用実践を結びつけて」

##### 3. 大学英語教育学会関東支部規約(案)

(前文)

本支部規約は、大学英語教育学会会則第6条2項に基づき、支部の運営に必要な事柄を定めるものとする。

第1条(名称) 本支部は「大学英語教育学会関東支部」(The Kanto Chapter of the Japan Association of College English Teachers)と呼ぶ。

第2条(目的) 本支部は、英語教育及び関連分野の理論と実践に関する研究を行い、大学における英語教育の改善と進歩、発展をはかり、あわせて関東地区における会員相互の交流を深めることを目的とする。

第3条(事業) 関東支部は、次の事業を行う。

1. 支部大会
2. 月例会
3. 年報の発行
4. その他必要と認める活動や事業

第4条(会員) 本支部の会員は原則として関東地区の「大学英語教育学会」会員とする。関東地区とは、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨の1都8県をいう。

第5条(役員) 1. 本支部には次の役員を置く。

- 1) 支部長 1名
- 2) 副支部長 1名
- 3) 幹事 若干名  
うち正幹事、会計を含む。
- 4) 監事 2名
- 5) 研究企画委員 若干名

2. 役員の任期はいずれも2年とする。ただし研究企画委員以外の役員は原則として3期までとする。研究企画委員の再任を妨げない。

第6条(役員の任務) 1. 支部長は支部を代表し、必要に応じて役員会を召集し、これを主宰する。

2. 副支部長は支部長を補佐し、支部長不在の折はその職務を代行する。

3. 幹事は支部の事務を統括し、本部や他支部との連絡、その他の事務を行なう。

4. 監事は支部会計の監査を行なう。

5. 研究企画委員は運営と研究に携わる。

第7条(役員会) 1. 本支部に役員会を置き、第5条の役員と、必要に応じて、本部理事、幹事、評議員、研究企画委員で役員会を組織する。

2. 支部長、副支部長、幹事及び監事は、役員会が推薦し、総会の承認を得る。

第8条(総会) 1. 本支部は毎年一回総会を開く。

2 総会における承認は出席者の過半数の賛成を必要とする。

第9条(事務局) 本支部は、事務局を関東地区のいずれかの大学に置く。

第10条(経費) 本支部の経費は本部より交付される支部費その他の収入でまかなう。

第11条(規約の変更) この規約の変更は、総会の出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

付則 1. この規約は平成18年4月1日より施行する。

( 笹島茂・埼玉医科大学 )

< 関西支部 >

2005年度支部人事(異動・新任のみ)

【幹事】石川慎一郎(神戸大学), 佐藤恭子(ブール学院大学)

【研究企画委員】長谷尚弥(関西学院大学), 加藤雅之(神戸大学), 奥田隆一(和歌山大学), 脇田博文(龍谷大学), 山本英一(関西大学)

【広報・通信委員】Robert J. Fouser(京都大学), 嶋林昭治(龍谷大学)

【事業委員】石川慎一郎(神戸大学)

【研究会担当委員】石川慎一郎(神戸大学)

1. 2005年度春季大会: 2005年6月4日(土)  
10:15 - 18:00: 於, 和歌山大学

テーマ: 「現代的ニーズに応える英語教育」

1) ワークショップ 1 ライティング指導におけるポートフォリオの可能性を探る - ライティング指導研究会企画 - Is Portfolio Assessment Useful for EFL Writing Classes?: 西嶋久雄(武庫川女子大学) 西香生里(京都精華大学・非), 西村有紀子(岐阜聖徳学園大学・非), Robert J. Fouser(京都大学), 正木美知

子 (大阪国際大学), 林桂子 (和歌山大学)

2) ワークショップ 2 よりよい大学授業のために - 「授業学」を考える - 授業学研究会企画 - A JUGYOGAKU: Quest for Successful English Classes : 窪田光男 (関西外国語大学), ストレイン・ソニア園子 (姫路獨協大学), 成田一 (大阪大学大学院), 村上裕美 (関西外国語大学短期大学部), 川越栄子 (神戸市看護大学)

3) 研究発表 9 件、実践報告 3 件

4) 2005 年度支部総会

5) シンポジウム 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム: 仕事で英語が使える日本人の育成」  
Moderator: 濱嶋聡 (名古屋外国語大学)  
Panelists: 原陽一 (立命館大学), 玉井俊紀 (名古屋外国語大学), 松縄順子 (神戸女学院大学)

今回の春季大会は和歌山大学を会場に開催された。天候にも恵まれ、130 名余の参加者を得て、「現代的ニーズに応える英語教育」をテーマに、午前中にはワークショップ 2 件、研究発表 9 件、実践報告 3 件が行われ、午後にはシンポジウムが催された。盛会のうちに終了した。

2. 第 1 回研究企画委員会: 2005 年 6 月 4 日(土)  
12:00 - 13:00 : 於, 和歌山大学  
議題: 2005 年度研究企画委員会委員について, 2005 年度秋季大会について, その他。
3. 第 1 回運営委員会 2005 年 6 月 4 日(土)  
14:40 - 15:15 : 於, 和歌山大学  
議題: 支部役員人事について, 支部長選出要領について, その他。
4. 2005 年度講演会: 2005 年 7 月 2 日(土)  
15:30 - 18:00 : 於, 京都外国語大学  
講師: 森住衛氏 (JACET 会長、桜美林大学)

JACET 通信

院)  
演題: 「日本の言語教育が抱える 3 つの課題: 英語教育をはじめとする異言語教育を中心に」

5. 2005 年度支部秋季大会: 2005 年 10 月 8 日(土), 於, 神戸大学。ワークショップ、研究発表、実践報告の応募要領は JACET-Kansai Newsletter No.28、並びに関西支部 HP (<http://www.jacet-kansai.org/>)に掲載。

(嶋林昭治・龍谷大学)

<九州沖縄支部>

1. 第 51 回東アジア英語教育研究会  
日時: 3 月 12 日(土) 15:30 - 17:30  
場所: 西南学院大学学術研究所第 1 会議室  
発表者: Jan Stewart (筑紫女学園大)  
発表題目: From Technique to Theory and Back Again -- Filling in the gaps in children's English education
2. 平成 16 年度第 8 回運営委員会  
日時: 3 月 19 日(土) 15:00 - 17:00  
場所: 西南学院大学学術研究所大会議室  
報告:  
1) 支部研究大会実行委員会から経過報告と今後の日程及び審議事項が伝達された。大会テーマ及びシンポジウムに関して 4 月 23 日の第 3 回支部研究大会実行委員会で最終的に決めることとなった。本部より小池特別顧問、矢野先生をお招きする。  
2) 平成 16 年度の支部会計および監査結果について  
3) ニュースレター 21 の進捗状況と広告費について  
4) Asia TEFL 進捗状況について

< 7 >

2 0 0 4

平成 18 年 8 月 18 日 - 20 日、西南学院大学において Asia TEFL の開催が正式に決定した。九州・沖縄支部では西南学院大学の武井先生に会場責任者をお願いし、今後会場設営等を中心に準備委員会を設ける予定。これに先駆け 4 月 16 日 Asia TEFL 会長、事務局長、小池特別顧問が来福するため木下支部長が対応する。

#### 5) 支部役員の変更について

琉球大学の平良先生に替わり、同じく琉球大学の東矢先生が新たに支部運営委員となる。

議題：

- 1) 支部紀要関係のスケジュールについて
- 2) 学会長の選挙について
- 3) 次回の支部研究大会実行委員会、支部運営委員会、支部総会の予定について

### 3. 平成 17 年第 1 回運営委員会

日時：4 月 23 日（土）14:00～17:00

場所：西南学院大学学術研究所第 2 会議室

報告：

#### 1) 支部研究大会実行委員会から

大会テーマ「多様化する大学英語教育：授業学の視点から」。シンポジウムは鈴木千鶴子先生がコーディネーターとなり、今後パネリストの依頼をすすめる。特別講演は小池生夫名誉顧問。本部理事招請、矢野安剛先生。韓国 PKETA は Prof. Jang, Sun-su, Prof. Lee, Seong-won。また、今後の日程、準備、役割分担に関する報告があった。宿泊、懇親会手配に関しては JTB に依頼。事務局から協賛企業に出展依頼をする。これに伴い既存の業者以外にも会員の皆様から出展可能企業の連絡先をご連絡いただく。

#### 2) Asia TEFL 進捗状況

今後の実施計画、業務および課題に関する報告があった。支部長から支部運営委員に対して協力の依頼があり、支部運営委員からの承諾を得

た。九州地区の実行委員案が次回の実行委員会で出されることになった。

#### 3) 全国理事会の報告

会長選挙、役員 の 定 年 制、本 部 規 約 改 正 に 伴 う 支 部 規 約 の 改 正、JACET 法 人 化 に 伴 う 会 計 制 度 の 注 意 事 項 等 に つ い て 報 告 さ れ た。尚、本 年 度 より 本 部 か ら 支 部 へ の 予 算 が 547,800 円 と な る。

#### 4) 授業学研究会について

4 月 6 日、7 日に行われた授業学研究会に関する報告があった。2006 年の書籍出版を目指し、今後多くの授業事例などを募集し内容を吟味し編集していく。

議題：

- 1) 本部の会計年度との整合性を持たすため、平成 17 年度決算を 3 月 31 日締めとし、ニューズレター 22 の発行も、その後にするよう提案がありました承された。
- 2) 本部役員 70 歳定年に伴う役員・評議委員の交代に関して提案があり、今後見直すことで承された。
- 3) 本部規約の改定に伴う支部規約の改定に関して提案があり、今後見直し 9 月の全国理事会で提出することで承された。

#### 4) その他

・10 月開催の P K E T A に派遣する福岡女学院大学の細川博文先生、宮崎県立看護大学の川北直子先生の推薦がありました承された。

・本部の紀要編集委員の山本先生より、査読委員増員の依頼事項が提案され、九州・沖縄支部は支部研究企画委員が全員候補者となることとなった。

・次回の支部大会実行委員会および運営委員会の予定について。



#### 4. 平成 17 年第 2 回運営委員会

日時：6 月 18 日（土）15:00～17:00

場所：西南学院大学学術研究所第 2 会議室

報告：

- 1) 授業学研究会より
- 2) 支部大会実行委員会より
- 3) Asia TEFL について
- 4) その他

議題：

- 1) 支部大会（シンポジウム、特別講演）について
- 2) 支部紀要について
- 3) その他

#### 5. 第 52 回東アジア英語教育研究会

日時：6 月 25 日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学学術研究所第 1 会議室

発表者：Robert Fouser（京都大）

発表題名：An Examination of the New “College English Curriculum Requirements” in China

#### 6. 第 5 回 ESP 研究会

日時：7 月 16 日（土）10:00～15:00

場所：熊本大学・大学教育機能開発総合研究センター B201 教室

発表(1)「コーパス分析に基づく医学英語教育システムの構築：意義と概要」横山彰三（宮崎大）

発表(2)「工学系学生用 CALL 教材開発について」山内ひさ子（久留米工業）

講演(1)「新 TOEFL について」西村明夫（国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部九州オフィス）

講演(2)「Effective Reading：日本の大学における ASP 型のイー・ラーニング CALL ソリューション」Benjamin Porter、宍戸 貢(成美堂)

講演(3)「オープンソース Moodle について」吉

田光宏（ミツテックコンサルティング：Moodle Parter）

#### 7. 今後の予定

・平成 17 年第 3 回運営委員会

日時：7 月 23 日（土）15:00～17:00

場所：西南学院大学学術研究所

・平成 17 年第 4 回運営委員会

日時：8 月 31 日（土）

場所：熊本大学

・第 19 回支部研究大会および支部総会

日時：10 月 8 日（土）

場所：熊本大学

（志水俊広・九州大学）

<p style="text-align: center;"><b>授業学研究委員会便り</b> 委員長 山岸信義</p>
---

学生の多様化に伴い、従来の講義中心のやり方では授業が成立しない現象が見られるようになり、教育理念も含めて根本的な授業の見直しが進められています。このような時代的背景の中で、JACET では教育の根幹は授業であるとの原点に戻り、英語授業の改善を探るために 2004 年 4 月に「授業学研究委員会」が旗揚げされ、同年 9 月に代表者委員会を開いて以来、本格的な活動を開始してきました。当委員会の設立趣旨の中で中心的な考え方になっている点は「実際に行われている授業、こうありたいと考える授業事例を中心に、これまで JACET で積み上げてきた英語授業関連の知見、理論、実践を総括して公表し、高等教育における英語教育をより大きく向上させる起爆剤としたい。」ということです。

現在当委員会では、全支部・地区の力を結集して、高等教育における英語授業のあり方について、実証的研究を目指して活動が継続されてきています。JACET 会員の先生方には、すでに「授業実践報告募集のお知らせ」の文書と、それに関連した資料を送付させて頂きました。また、JACET のホームページにも 10 種類の募集関連資料が掲載されております。

応募の締切は 2005 年 8 月 5 日となっております。会員の先生方からの多数のご応募をお待ちしております。授業実践報告申込書及びフォーマットは、JACETHP(<http://www.jacet.org/index.html>) からダウンロードしてご記入の上、申込書 1 部とフォーマット 4 部を、応募要項に掲載されている一覧表でご確認の上、所属の支部・地区の代表者宛に「授業実践報告在中」と朱書の上お送りください。授業実践事例は今まで行ってこられた授業を対象とさせていただきます。

現在、学会の 6 支部 1 地区の登録会員の合計は 100 名以上で、多数の委員が結集しています。本委員会は、第一弾の任務として 2006 年 9 月を目処に「高等教育における英語授業の研究 授業実践事例報告を中心に」(仮称)を刊行する予定です。この報告書は、総論編、実践事例編、分析編の 3 部構成になる予定です。玉川大学で開催される第 44 回全国大会では、9 月 9 日(金)の 16:50 ~ 18:20 の時間帯で特別委員会報告として当委員会の中間報告をさせて頂くことになりました。会員の先生方のご支援を感謝いたしております。

編集後記

学期末のお忙しい折に原稿を送っていただきありがとうございました。おかげさまで、7月号ができてあがりました。

中里喜彦(東海大学)  
大崎さつき(千葉大学・非常勤)

-----  
**The 32nd JACET Summer Seminar Proceedings  
No. 4 Facilitating Vocabulary Acquisition  
Available Now!**

Other Issues:

No. 1 : Language Learning Strategy / Rebecca Oxford

No. 2 : New Perspectives in ESP / Dan Douglas

No. 3 : Pragmatics in Second Language Acquisition: A Focus on Speech Acts / Andrew Cohen

頒価 一冊 500 円(別途、送料・実費負担)

ご購入は、JACET 事務局までお問い合わせ下さい。

大学英語教育学会事務局 [事業委員会]

〒162-0831 新宿区横寺町 55 英検ビル 4 F

: 03-3268-9686 Fax : 03-3268-9695

-----  
2005 年 7 月 30 日発行

発行者 大学英語学会 (JACET)

代表者 森住 衛

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町 55

電話(03) 3268-9686 FAX(03) 3268-9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘 3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251-5775